横歴例会レジュメ　　横浜歴史研究会

『日本書紀1301年と平城京ツアー』

忌部　守

１．『日本書紀』（７２０年）の史料批判

史料の記述そのものが正しいかどうか、他史料や考古資料などとの比較によって検討することを、史料批判と言い歴史研究にはとても重要な作業となる。

① 郡評論争

大宝令制（７０１年）前の地方行政組織が、『日本書紀』にある「郡」なのか、「評」なのかという論争。１９５１年に井上光貞氏が「評」であるという説を発表し論争になり、６０年代に活発化したが「木簡」の出土により朝鮮半島起源の「評」（コオリ）で決着した。

→『日本書紀』は、大宝令制前の「評」を敢えて「郡」に書き換えていることが判明した。《用語の問題》

② 大化改新否定論

大宝令制（７０１年）前の６４５年に起きた乙巳の変（大化改新）の翌年正月に発布されたとする『日本書紀』の「改新之詔」が史実なのかという論争。代表的なものが門脇禎二氏の『大化改新論』で１９６９年に発表され、７０～８０年代に論争になった。

→『日本書紀』の記述には潤色が含まれているというのが定説になるが、改新之詔は無かったとするものから、大宝令の知識で潤色されているだけというものまで、詳細については決着していない。《内容の問題》

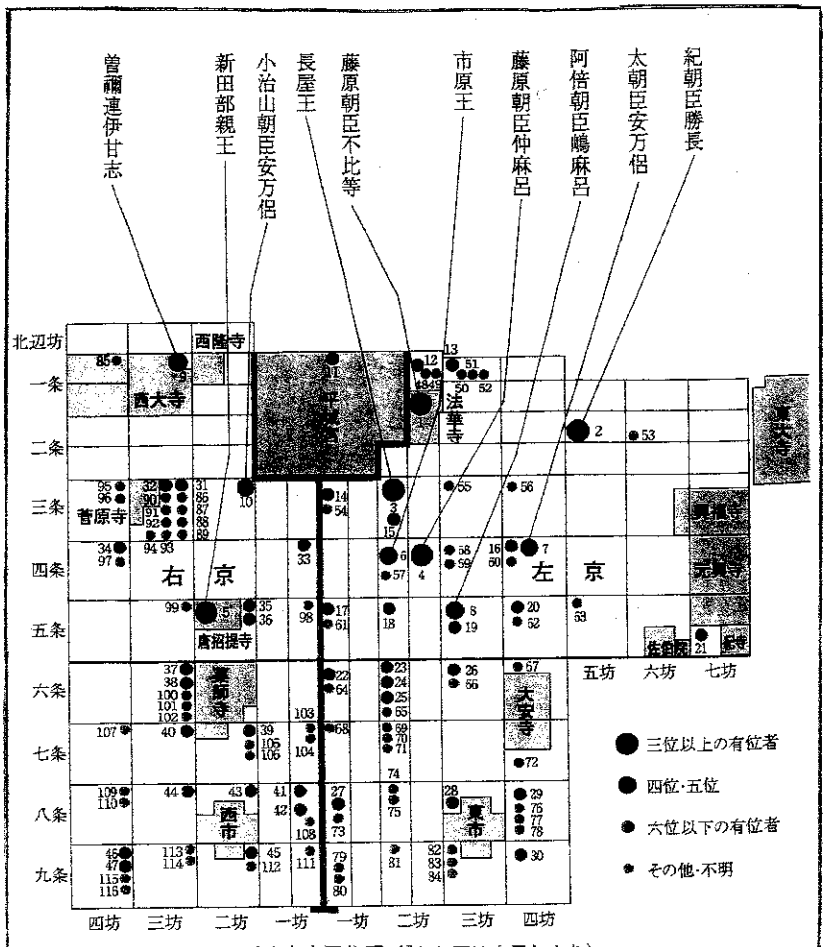
③ 邪馬台国・卑弥呼について記載がない等々

ほぼ同時代文献である中国史書『魏志倭人伝』に登場する邪馬台国や卑弥呼について、八世紀初頭に書かれた『日本書紀』には記載がない。神功皇后紀には、神功が卑弥呼であると思わせる記述が割注にあるが、神功皇后は「倭女王」でもなく、また四世紀後半の人物なので辻褄はあっていない。

→『日本書紀』は王権の性格や時期などの重要な問題については、八世紀初頭の律令政府の立場からの潤色が多い。《王権・天皇制等の問題》

６９７年	８月	文武天皇即位	７０１年	６月	大宝律令施行
７０２年	１２月	持統天皇崩御	７１０年	３月	平城京遷都
７１７年	３月	物部（石上）麻呂薨去	７２０年	５月	日本書紀完成
７２０年	８月	藤原不比等薨去			

忌部守の説には、既に発表しているものとして、アマテラス男神説・邪馬台国吉野ヶ里説・崇神天皇（邪馬台国）東遷説・倭の五王と二つの王家説・藤原京



平城京内居住図（『なら平城京展』より）

六位以下の有位者

11氷宿禰広万呂（参考：宮内のため不審），12丈部臣葛嶋，13大原真人今城，14阿刀宿禰田主，15槻本連大食，16奈良日佐牟須麻呂，17小治田朝臣豊人，18小野朝臣近江麻呂，19村国連五百嶋，20島取連嶋麻呂，21石川宮衣，22酒田朝臣三□，23間人宿禰鵜甘，24安拝常麻呂，25後部高笠麻呂，26葛井連恵文，27山部宿禰安万呂，28大宅首童子，29山部針間万呂，30漆部連虫麻呂，31於伊美吉子首，32丈部浜足，33上毛野公奥麻呂，34秦大蔵連弥智，35岡連泉麻呂，36車持朝臣若足，37赤染大岡，38尋来津首月足，39黄君満侶，40次田連東万呂，41秦常忌寸秋庭，42韓人田忌寸大国，43田上史嶋成，44橘文広足，45山下老，46上主村牛甘，47井守伊美吉広国

その他・不明

48坂本朝臣松麻呂，49倭史真首名，県犬養宿禰忍人，51奈良日佐広公，52新田部真末，53船木麻呂，54山辺少孝子，55日置造男成，56小治田朝臣藤麻呂，57石上部君鷹養，58秦人虫麻呂，59小治田朝臣弟麻呂，60丹波史東人，61大俣連山守，62丹波史東人（夫人），63百済連弟人，64犬上朝臣真人，65海犬甘連万呂，66楢磐嶋，67草首広田，68池田朝臣夫子，69丹比勇万呂，70息長丹生真人広長，71息長丹生真人常人，72市君船守，73民伊美吉若麻呂・財首三気女，74高史千嶋・高史橘，75三尾浄麻呂，76道守朝臣三虎，77直代東人，78他田舎人建足・桑内連真公，79布師首麻知麻呂，80陽胡史乙益，81海使蕨女，82与部忍男，83志斐連公万呂，84田部国守，85国覚忌寸薩比登，86出雲徳麻呂，87物部連族五百，88次田連福徳，89秦小宅牧床，90三上部麻呂，91細川椋人五十君，92寺史足，93三国真人磯乗，94三国真人国継，95箭集宿禰石依，96大宅岡田臣虫麻呂，97鞠智足人，98小治田朝臣比売比，99岡屋君大津万呂，100国百嶋，101茨田連豊主，102□□野麻呂，103桜井田部宿禰足国，104□□忌寸加比麻呂，105笠新羅木臣吉麻呂，106台忌寸千嶋，107高麗人祁宇利黒麻呂，108国覚忌寸弟麻呂，109大原史足人，110辛国連広山，111息長丹生真人川守，112敢国足，113葛井連恵文，114文伊美吉広川，115高向主寸人成，116息長丹生真人人主

〈出典〉馬場基『平城京に暮らす』（吉川弘文館）

新羅王京影響説などがある。(『もうひとつの古代史』等ご参照)

２．平城京造営(７１０年)の特徴

八世紀初頭に造営された平城京の特徴は、以下の通り。

① なぜ僅か１６年で、藤原京(６９４年遷都)は見捨てられたのか？
藤原京は、新羅の王京(慶州)の影響で造営されたので(忌部守説)、北闕型の中国式の都城ではないため、中国律令を直接体系的に継受した大宝令を実施(７０１年)した直後、都合が悪くなり直ぐに平城京を造営して遷都(７１０年)した。

② それでは、初めての中国的な都城である平城京造営の基本構想は？
平城京は、初の北闕型の中国的都城であり、都の中央北端に天皇の宮城を置き、右側に左京・左側に右京、さらに東側に外京を置く。定説はないが、平城宮の東張り出し部には東宮(皇太子)があり、藤原不比等が娘・宮子の産んだ首皇子(聖武天皇)を養育し皇太子・天皇にするために張り出し部を造ったのではないか？不比等邸は、張り出し部に隣接し後に光明皇后により法華寺(国分尼寺)となった。また、外京には藤原氏の氏寺・興福寺が存在し、平城京を見下ろす高台に展開して藤原氏の拠点になっている。

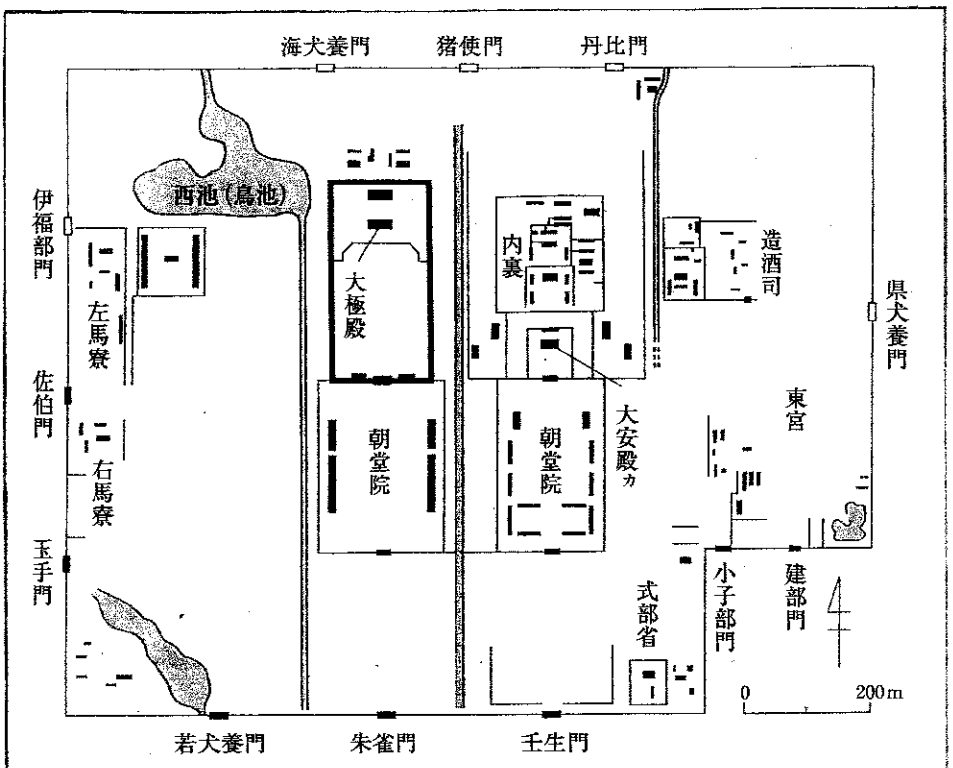
平城京の主要な建築物は、以下の通りである。

① 平城宮大極殿院…平城京１３００年祭(２０１０年)で再建。その後も、回廊に続き南門(覆屋)、さらに東西楼閣も再建する計画。遷都時は、藤原宮の建物を移築した。

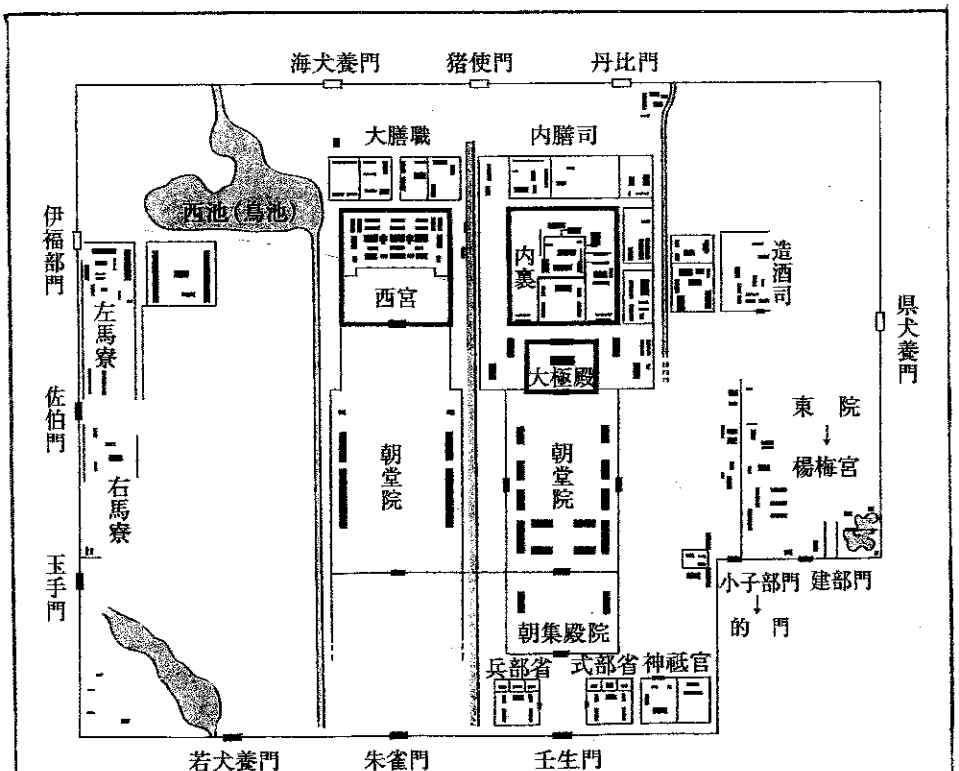
② 興福寺中金堂…外京(東張出し部)にある。『日本書紀』１３００年で昨年再建。藤原氏の氏寺。明治維新の廃仏毀釈で藤原氏が春日神社に移籍して縮小、現在の奈良公園が造られた。中金堂裏の仮講堂は、元の薬師寺金堂(江戸時代建造)を使用。北円堂は、不比等一周忌に建造(無着・世親像を安置)。

③ 薬師寺中門…右京六条二坊。藤原京から移転したが、両寺併存。金堂や西塔・講堂などを再建。東塔(覆屋)は解体修理中。(既に終了)

④ 唐招提寺講堂…右京五条二坊。鑑真生存時の中心建物で、平城宮の東朝集院の建物を移築し、現存している。金堂は、鑑真の死後建造したもの。「招提」



1　奈良時代前半の平城宮



2　奈良時代後半の平城宮

〈出典〉奈文研『日中古代都城図録』(クバプロ)

とは、唐において私寺(官寺に対し)を意味する。鑑真は渡日後、東大寺戒壇院付近に住んだが、その後唐招提寺に寺地を賜り、移動。

⑤ 奈良貴族の自宅

貴族邸宅は、一町以上の広さ。長屋王は四町(坊の四分の一)、藤原仲麻呂は六町。立地も五条以北で、通勤に便利なように平城宮に近い。日の出前に第一開門鼓が平城京に鳴り響いた。また貴族邸宅には、家政機関(家令)が付属していて、家令たちが通勤していた。下級官人の家は、多くが借金の抵当に入っていて居住地が判明する。

・藤原不比等(右大臣)…平城宮東隣、現在の法華寺(左京二条二坊)。『日本書紀』と大宝律令を編纂した中心人物である。死を意識した三か月前(７２０年)に、不比等は『日本書紀』を公表した。

・太安万侶…左京四条四坊内。『古事記』編纂者。従四位下民部卿。墓誌が出土したので、居住地が判明した。

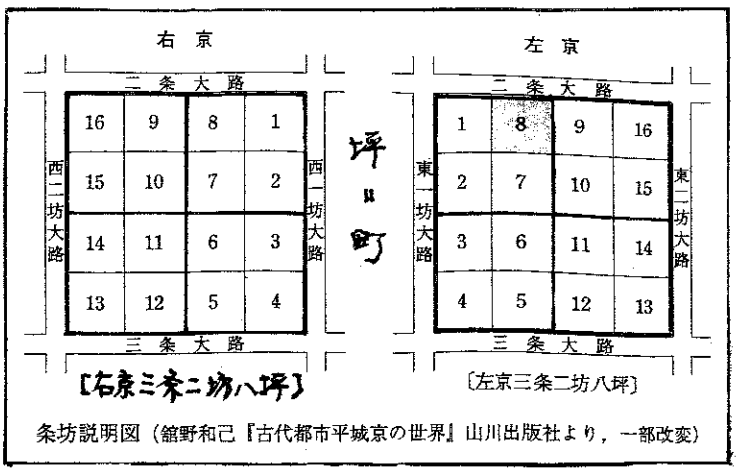
・長屋王(右大臣)…二条大路南(左京三条二坊)。天武天皇の孫・高市皇子の子。光明子の子・基王の立太子等に反対したとされ、密告により失脚(７２９年)。

・新田部親王…右京五条二坊。天武天皇の第七皇子。長屋王の罪を糾弾(７２９年)するが、橘奈良麻呂の変(７５７年)で子供の道祖王(ふなど)・塩焼王が連座し邸宅を没収される。その後鑑真に下賜され、現在の唐招提寺になった。

・藤原仲麻呂(太政大臣)…左京四条二坊。田村第と呼ばれる。大炊王(おおい)を田村第に住まわせ、淳仁天皇とした。仲麻呂の乱(７６４年)で失脚。

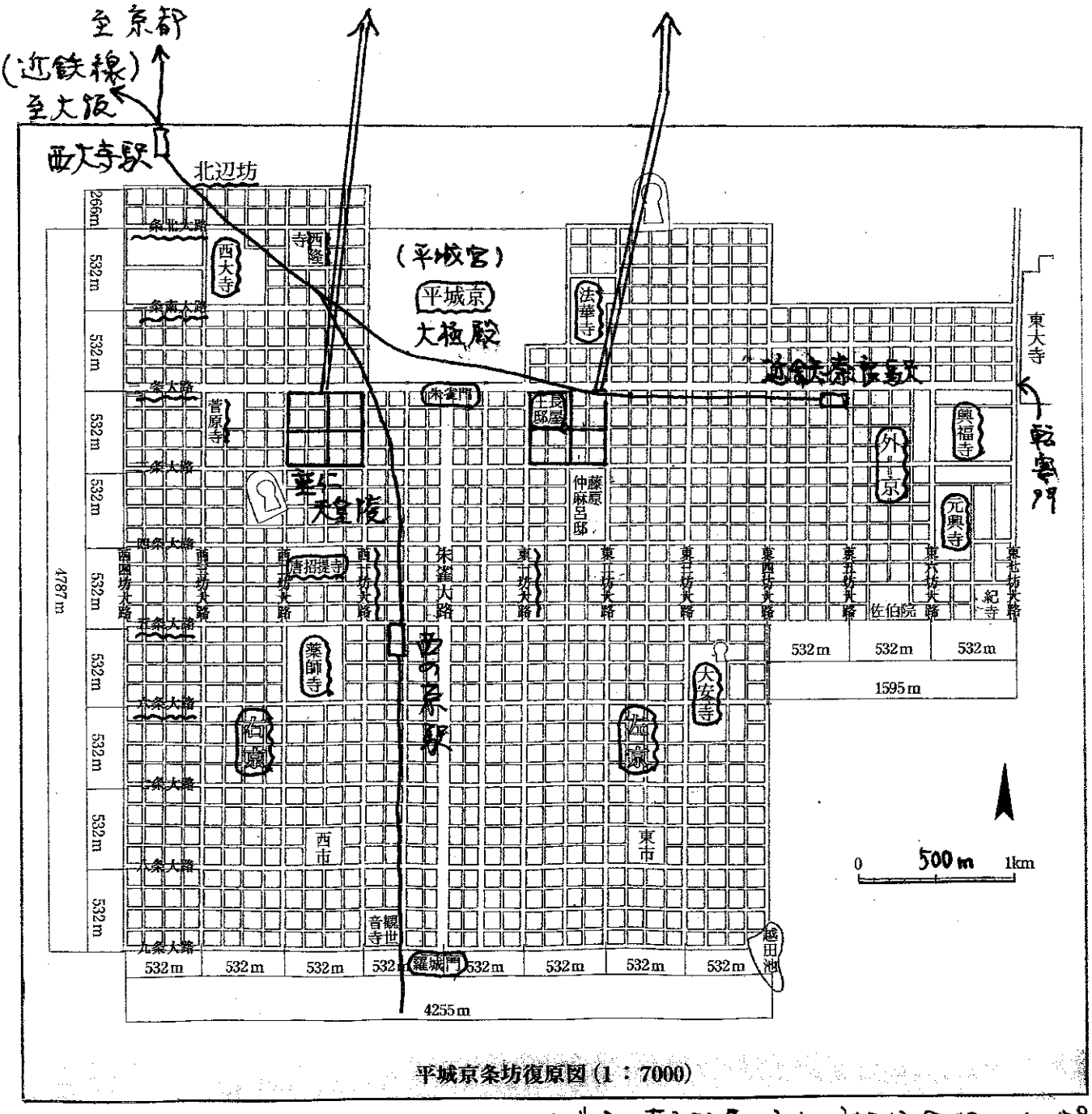
【参考資料】

奈良文化財研究所『日中古代都城図録』(クバプロ、２００９年)
馬場基『平城京に暮らす』(吉川弘文館、２０１０年)
寺崎保広『若い人に語る奈良時代の歴史』(吉川弘文館、２０１３年)
鐘江宏之『律令国家と万葉びと』(小学館、２００８年)
村島秀次『もうひとつの古代史』(歴研、２０１５年)
村島秀次「新・邪馬台国東遷論」(『古代文化を考える』７１号、２０１７年)
村島秀次「藤原京に与えた新羅王京の影響」(同上・７２号、２０１８年)
村島秀次「倭の五王と二つの古墳群」(同上・７３号、２０１８年)　以上



条坊説明図（舘野和己『古代都市平城京の世界』山川出版社より，一部改変）

〈出典〉馬場基『平城京に暮らす』（吉川弘文館）



平城京条坊復原図（1：7000）

〈出典〉奈文研『日中古代都城図録』（クバプロ）